



ホームページ・<http://www.ys-chubu.jp/>

2009年2月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「希望の灯となろう」・「分かち合いは微笑をもって」
- アジア地域会長 : 「希望の灯となろう」・「より良き奉仕のために共に働こう」
- 西日本区理事 : 「思いやりを持ってワイズライフを！」
- 中部部長 : 「楽しくワイズ、スクラム組んで」
- プラザクラブ会長 : 「学びを深めつつ、着実な活動を！」

【強調月間: TOF・CS・FF】

2月例会・今後の予定ご案内

【2月第1例会 (TOF)】

日 時: 2月12日 (木)・19:00-
 場 所: 名古屋YMCA会議室
 内 容: 1. 次期役員選出
 2. 切手シート徴収
 昨年玉年賀はがきの当せん切手シートを差し
 支えない枚数をご持参ください。

【2月第2例会】

日 時: 2月26日 (木)・19:00-
 場 所: 名古屋YMCA会議室
 出席者: 役員 (大島・榊田・松永)
 (義務者) 3月担当者 (小澤・横井)
 4月担当者 (島崎・高田)
 内 容: 3月議題 (卓話・メンバースピーチ) について

【今後の予定】

1. チャリティステージ (人形劇)
 日 時: 3月21日 (土)・開演15:30
 場 所: 東別院会館ホール
 入場料: 一般 3000円 (当日3500円)
 中・高・大学生2000円 (当日2500円)
 小学生以下 1000円 (当日1500円)
 ◆チケット購入先・YMCAまたは近くのワイズメンまで
2. 第12回西日本区大会
 日 時: 6月6日 (土) - 7日 (日)
 場 所: 大会会場・熊本市民会館
 懇親会場・ホテル日航熊本

◆プラザのブリテンがインターネットでご覧いただけます。HPご利用の方は左下段の榊田宛Eメールにて「郵送不要」とご連絡ください。

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ開催前日の午後5時までにご連絡ください。

1月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役 員	会 員 氏 名	出 席 者			算 定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎	○	○	○	○
	小澤 幸男				
書記	榊田 守隆	○	○		○
直前会長	後藤 猛	○		○	○
	島崎 正剛	○			○
副会長	鈴木 誉三	○	○	○	○
	高田 廣	○		○	○
会計	松永 裕子		○	○	○
	横井 豊	○			○
連絡主事	万福寺 昭美	○	○		○
広義会員	山本 茂樹				
ゲスト					
(M) メキヤップ	1. ワイズセミナー				
出席率合計・(算定合計/会員数)					90.0%
1. ニコボックス ・当月/累計		0	28524		
2. オークション		0	31300		
3. 切手		0	0		
ファンド ・当月合計/累計		0	59824		
◆次月号の寄稿者は高田さんです。 Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

1月第1例会報告

日時：1月8日（木）・18:30-20:30

場所：みなと

1.1 月行事の参加者確認

(1)1月12日(月・祝)・Yを楽しむ会

参加者・2人

(2)1月22日(木)・新年合同例会参加者

参加者・8人

(3)1月25日(日)・ワイズセミナー

参加者・5人

2.新年会

「新年あけまして、おめでとうございます」と挨拶を交わしながら「みなと」へ、メンバー8人が時間通り集まる。会長から1月に予定する行事の確認(1項)も済み、いつもどおりの飲み会が始まる。昨年は残念ながら山内さんが退会されましたが、機会があれば再入会されることを期待するとともに、新規会員の獲得にいま何が不足で何をしなければならぬのか、とアルコールが入るに従い大いに盛り上がる。この話しは素面で真剣に急いですることを結論・・・として8時半に終わる。

1月第2例会(新年合同例会)報告

1. 連絡事項

(1)2月第1例会(TOF)

日時:2月12日(木)・19:00-

場所:名古屋YMCA会議室

a. 次期クラブ役員選出

次期会長の鈴木さんは役員案を提出のこと。

b. お年玉年賀はがきの当選切手シートが当たった方は持参願います。

お年玉付き年賀はがき・切手当せん番号

2009年用(ABC各組共通)

1等 345898

2等 663829 908796 028962

3等 下4ケタ 5070

4等 お年玉切手シート

下2ケタ 94 46

C組限定賞 882347 223109

c. TOFのため食事はおにぎりとお茶程度にします。

(2)2月第2例会

日時:2月26日(木)・19:00-

場所:名古屋YMCA会議室

内容:3月例会について

2. 名古屋地区新年合同例会報告

毎年恒例の名古屋地区新年合同例会は、1月22日名古屋市覚王山の松風閣で7クラブ50人が参加して7時に開かれた。例会は、グランパスの三井さんの司会で開会点鐘・ワイズソング・開会祈祷・開会挨拶と進み、谷川中部部長は、①1月25日・2時から名古屋YMCAで行われるワイズセミナーへの参加、②3月21日・3時から東別院会館ホールで行われる人形劇の収益金は、各慈善団体の支援金として生かされますので多くの人を誘い合わせてお出かけください、③2010年8月に開催される「横浜国際大会」への参加と1個500円のピンバッジのご購入をお願いします、④イスラエル軍に攻撃され多数の犠牲者と大規模な被害を受けたパレスチナ自治区ガザの人道支援のための募金を行いますのでみなさまのご協力をください、とお話しをされた。続いてのハートキャンプの報告では、グランパスクラブの松原さんがパワーポイントを使いながら、2006年の台風21号により被害を受けたフィリピンアルバイ地区に若いリーダーたちと入り、子どもたちの心のケアを主な目的とした1週間の奮闘記を熱く語る。食前感謝の後は東海クラブの野村理事長の乾杯の挨拶、この挨拶が洒落ている「若い頃この松風閣に来られる機会がある前は、楽しみに待ちました。料理が名古屋一美味しいからです。わたしも年をとりました、いまの若い人の判断はどうでしょうか、美味しいお料理と楽しいひと時に、カンパイ」

7時45分、会食が始まった。今日参加の7クラブの代表が、パワーポイントの画面を追いながら昨年の活動状況を説明した。わがクラブはグランパスの荒川さんにパワーポイント作成をお願いした小生が、画面まかせで二言三言の説明で終わったが、みなさん理解できたでしょうか？心配です。お料理は野村理事長のお墨付き通り年寄りの舌でも美味しくいただきました。特にあの椀の・・・食べ物に講釈は無粋です。大いに食べて飲んでお話ししているうちに、YMCAの歌、グランパスクラブの坂口会長の点鐘で9時に終了する。

Yを楽しむ会報告

2009年1月12日(月・祝)に、第2回「Yを楽しむ会」が開かれました。第1回は、9月に行われた街頭募金の日の夕方に実施しました。そもそもこの企画は、今年度5月の会員総会で出された意

見がきっかけとなっています。YMCAの維持会員の方々が参加する機会をもっと作りたいという思いから生まれたもので、会員の大人たちが集まって、お酒を片手に楽しむ機会があっても良いのではないかと！という趣旨の企画です。主催は、2008年度総会準備委員会であり、後藤田典子氏、オルソンキクチ三恵氏、井上剛志氏が中心となって企画をしています。今回の会には、常議員・スタッフ・維持会員合わせて30名余りの方々が参加し、YMCAのロビーで楽しいひと時を過ごしました。ルールとしては、①何か1品の持ち寄り、②あまった資金はチャリティー募金へ入れることです。

冬場の開催ということで、「暖かいもの」が食べたいというスタッフの発想もあり、野外炊事備品を利用した暖かいおでん、オーブンで焼いた熱々のピザなどを用意しました。オーブンはフル稼働で、暖めOKなものは、何でも焼いて食べました。参加していただいた皆さんのご協力により、たいへん豪華な食卓を囲むことができました。お話も盛り上がり、食べ物もお酒もあつという間になりました。肝心のチャリティーは、3万円を超える募金を集めることができ、会も盛況のうちに終わることができました。次回は、暖かくなった頃、4月を予定しています。次回もよりたくさんの皆さんにご参加いただければと思っています。

(万福寺 昭美)

中部ワイズセミナー

1月25日〔日〕名古屋YMCA3F会議室にて、中部ワイズアカデミー主催でワイズをより深く理解する為のセミナーが開かれ40名程のワイズメンが集まりました。

三井さんの司会で谷川部長の挨拶から始まり、会の前半は名古屋クラブの川村さん・グランパスクラブの服部さんお二人から入会にいたった経緯・ワイズへの思いを語っていただきました。

後半は京都キャピタルクラブの岡本尚男さんに大いにワイズを語る（ワイズ読本の編集を担当して）という題で熱く語っていただきました。

各々の方のワイズへの思いが伝わりましたし、またワイズメンクラブはいかにあるべきか今一度考えさせられる良い機会になりました。クラブはいかにあるべきか仲間内で話し合う機会はありますがなかなか結論ができません、経験ある知識や新しい視点

を知ることで個人の考えもまとまってくるはずで、まだセミナーに出席されたことない方次の機会には是非参加下さい。

(鈴木 誉三)

60歳を過ぎて思うこと

60歳を過ぎると4年間過ごした京都での学生生活が、間の40年を飛び越えて、急に思い出されることが多くなりました。

40年前私の下宿先は、京都の三宅八幡で、河原町今出川近くにある叡山電鉄の出町柳駅から20分、宝ヶ池を過ぎ八瀬方面に向かった所にありました。

昭和40年代前半の下宿付近は、田や畑ばかりでそのなかにポツンと1軒建っているだけ夜になると真っ暗、しかしそんな田舎に4年間住んだおかげで、夜空の星の多さや光の明るさを実感でき、窓を開ければ比叡山を八瀬側の裾野から頂上まで一望することが出来ました。またすぐ側には下流で賀茂川の流に合流する高野川が流れており、夏にはホテルが飛び、部屋には時々カエルが飛び込んでくる、今思えば自然環境に恵まれすぎた所に下宿していたものです。ただ一つの欠点は銭湯が近くにはなく、電車に乗って2駅市の中心部寄りの修学院まで行かねばならないことでしたが、下宿の連中が誘い合っておくとタオルを持って電車に乗るのが当たり前という感じで、学生生活を楽しんでいました。

その修学院の銭湯のすぐ近くに平八茶屋という料亭があり、学生ではとてもは入れそうもない歴史を感じさせる古い門構えで、下宿仲間と社会人になり余裕が出来たらここで食事に来たいものだな、とよく話しをしていたものですが、残念ながら25年近く行く機会がなくほとんど忘れかけていました。しかし50歳近くになり、ほとんど毎日通っていた飲み屋の仲間7人と京都へ食事に行こうという話しになり、私が幹事ということで忘れかけていた学生時代の夢を思い出し、平八茶屋に電話しまだ営業しているかを確認し、予約を入れました。

あれから25年きつとお店の様子も変わっているだろうと思いながら車2台で到着、でも道路から見るかぎり母屋や山門のような門構えの雰囲気は昔と変わりなくほっとしました。後から聞けば200年前に大火の後建て直された母屋とのこと、歴史ある場所では25年くらいいたいた時の流れではないのだな、やはり京都だと感心した覚えがあります。以

来飲み仲間もこの店が気に入ってくれ年に1回は事に行くようになりました。

お店の創業は当代から20代目まで遡って主人の名が確認できる天正年間(1576年)としているが、伝承によると平安初期が起源ともいわれる由緒ある料亭です。若狭街道の街道茶屋として名物のとろろ汁の昼懐石をレトロな雰囲気のある部屋で、高野川の流れの音を聞き京都らしさを味わいながらゆっくり食事が出来るところです。一度京都見物をおかねて行かれる価値があると思います。

私も今年の2月で親父が亡くなった歳と同じ62歳になります。健康なうちに仕事をセーブして休みをとって、学生時代に行くことができなかった寺院・神社や思い出がある場所をゆっくり尋ねてみたいと思っている今日この頃です。

(鈴木 誉三)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください。」と言った。すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」(ルカの福音書12:13-15)】

【イエスが群衆の前で真理のための闘いという話しをしていたとき、一人の男が場違いな遺産相続の相談を持ちかけた。イエスはムツとしたのか、「私はそんなことを受ける裁判官でも調停者でもない」と素っ気無い返事をするが、気を取り直してこんなたとえ話を始めた。「ある金持ちは、倉に入りきらないほどの豊作に恵まれたため倉を大きくしてためて置き、これからは安心して飲んで、食って、楽しく過ごそう、と考えた。しかし神様は『愚か者、今夜お前が死んだら蓄えた物はだれのものになるのか』。普通の人なら遺産相続の相談者も金持ちも羨ましい話であり、多くの人はこう有りたいたいと考える。『愚か者』呼ばわりされる筋合いはないのに……。イエスは、金持ちが悪いのではなく愚かであることが悪い、その愚かさのもとには人の奥深くにある貪欲である、と。また、「わたしが、わたしが、と生きてきた命も、築いてきた財産も、神様の前には何の意味もない、自分のために富を積んでも、

神の前に豊にならない者には、無きに等しいものになってしまう。(21節)」と諭している。】

Zoom・隣は何をするひとぞ

同じ日に起きた隣人同士のトラブルをテレビのワイドショーが報じている。春日井市に住む男性が病院から帰宅したところ、自宅の車庫前に隣人の男の車が止めてあったので、移動を促すためにクラクションを鳴らしたらいきなり包丁で切りつけられた。男性は1時間後搬送先の病院で死亡した。また、堺市の寺の住職は、道路を隔てた向かいの運送会社のトラックが朝早くから出入してうるさいので困らせようと思い、10年前から倉庫のシャッターに塩をまいて腐食させた。補修費用は約38万円、住職は建造物損壊容疑で書類送検された。

かみさんに「ご近所でのトラブルはあるの」と聞いてみた。お向いさんのお屋敷が更地になり、あっという間に4軒の洋風住宅が建ったばかりである。この辺りの風景は、家族と一緒に転勤を繰り返して、この家に帰ってきた25年前の風景とは違う。新しい隣人とのいざこざでも思ったが、無言である。暫くしてぽつりと「昔はあった」という、意外な話に驚いた。原因はポチである。

ポチとは、昭和63年(1988年)12月の末、近所の悪童連中にいじめられ、あちこちの家の庭に逃げ込み追い出され、巡りめぐってわが家の庭に居座った捨て犬である。いつかは出て行くだらうとほうっておいたが、1週間経っても鳴きもせず居続ける。子どもにせがまれ飼うことにした。翌64年の正月明け、元号が平成に変わる数日前、保健所で登録手続きをする。飼い始めは大人しかった。日が経つにつれ仕える主人に忠義を尽くそうと、来る人ごとに「ワンワン」と鳴いた。

ポチが来て間もなく、昼間3、4回電話が鳴り、出るとすぐ切れた。始めは間違い電話と思いきも留めなかったが、ある日から「うるさい」と一言いって無言のまま切らない。男の子の声だったから大よその見当はついてはいたが、面と向かって言うことはさすが憚られたようだ。ある日、業を煮やして、「ポチの鳴き声がうるさいの？ だったらポチによく言って聞かせますのでこんな電話しないでね!!」と、強い口調で話したという。以後無言電話は掛からなかった、と。「兎角に人の世は住みにくい」。